

はままつWell-Beingアワード2023 応募申込書

【はままつWell-Beingインパクト賞】

Digital Smart City HAMAMATSU



令和5年8月31日

企業又は団体名：一般社団法人One Smile Foundation

- ・ 地域幸福度（Well-Being）指標は、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感（Well-being）」を可視化する指標として、一般社団法人スマートシティ・インスティテュート（以下 SCI-Japan ）が作成・開発した Liveable Well-Being City 指標 ® の別称です。
- ・ Liveable Well Being City 指標を示す標章に関する商標権その他の知的財産権は、SCI-Japanに帰属しています。

No	項目	内容
1	取組やサービスの名称	笑顔が寄付に変わる「スマイラル！」
2	取組やサービスの対象・ターゲット	介護施設等を利用する高齢者や障がい者、及びその家族や支援者
3	取組やサービスの内容	「スマイラル！」は、2019年に着想を得て2020年に法人化して以来、国内外問わず活動を進めています。 スマートシティを中心に、タブレットやスマートフォン、街中に設置された防犯カメラなどのITセンサーデバイスにAIによる笑顔認証機能を搭載し、私たちの日々の笑顔が計測される度に「1笑顔＝1円」の寄付が発生する仕組みです。 これまでの寄付は富を持つ者に限られた活動でしたが、笑顔を介在させることで国籍、年齢、性別、障害、貧富の差にかかわることなく、全ての人々が支援者の立場になれることから、従来にない規模で共助社会を醸成することが出来ます。特に高齢者や障害者、病人等の社会的弱者にとって通常支援される傾向が強い立場の方々においては、自尊心や自己肯定感等が下がる傾向にある中、個人の一義的な幸福を目指し実現するだけで、社会参画と貢献が達成できる仕組みとして様々な業界や団体から期待を集め事業化を進めています。 これまでに浜松市、広島県、廿日市市、加古川市、磐田市、宇部市等と取り組み、G7広島サミットへの出展、PMIアワード優秀賞&Well-being賞、台湾GREENTOPIA優勝、GO SMARTアワードファイナリスト、韓国ソウル市スマートシティアワード、セミファイナリストに選出され、国内外問わず高い評価を得ています。

No	項目	内容
3	取組やサービスの内容 (続き)	浜松市では、2021年のHamamatsu ORI-Projectで採択を受けたことをきっかけに、健康経営やウエルネス分野に積極的に取り組む企業やBリーグ（三遠ネオフェニックス）やなでしこリーグ（SSUポニータ）などのプロスポーツ団体と連携した取組を行ってきました。現在は、浜松市内の介護施設及び障害者就労支援作業所にて、顔認識技術で利用者個人を識別し、対象の施設利用者の笑顔の発生をLINEでご家族に通知するとともに、対象者の笑顔の画像を自動的にサーバーに記録し、ネット上でご家族にご覧いただけるようにする新たな取組に挑戦しています。ご家族に負担いただくサービス利用料が寄付の原資となります。実証実験を含めて浜松市での取組の対象人数を累計すると、約3000名に上ります。
4	対象・ターゲットの 幸福感向上のストーリー	施設内に笑顔検知端末を設置し、笑顔の検知を行います。その際、対象となる施設利用者の笑顔が「1笑顔＝1円」換算で、子ども食堂等への寄付につながることで、笑顔がご家族に届くことを伝え、意識的笑顔を作る動機付けを行います。 初めはよく分からない方々も、意識的に笑顔を作ってみると、AIが検知しディスプレイモニターに楽しいエフェクト（ランダムで変化）とともに表示されることで、笑顔が無意識的で自然な笑顔に変わり、コミュニケーションの活性化と共に笑顔が量産されます。 対象者の笑顔は、顔認証による個人識別を行うことで、ご家族に自動で通知しています。それが、対象者のご家族に安心感を与えると同時に、対象者と面会したり、施設スタッフとのコミュニケーションを取る機会を増やすといった行動変容を促します。 施設スタッフ等の支援者も、対象者の笑顔の増加や家族とのやりとりの増加により、仕事のやりがいや再認識し、さらに高いモチベーションで、対象者の支援を行うことにつながります。

No	項目	内容
4	対象・ターゲットの 幸福感向上のストーリー (続き)	利用者本人は「笑顔が寄付に変わる」自分を好ましく思うと同時に、笑うことそのものにより、精神的に健康な状態になります。 家族は、笑顔が届く安心感により精神的に健康な状態になるとともに、積極的に利用者に関わる自分を好ましく思うようになります。 施設スタッフ等の支援者は、多くの笑顔を生む仕事に携わる自分を好ましく思うようになるとともに、精神的に健康な状態になります。 以上のような各人の幸福感の向上は「笑顔が寄付に変わる」という本取組の特徴により、寄付先をはじめ、地域全体に拡大します。 なお、2021年度に施設スタッフに対して行ったアンケートでは、「他者への貢献意識」、「他者との繋がり」、「充実感」、「人生満足」、「現在満足」、「楽観性」、「自己効力感」の7項目について、取組の前後で、統計的に有意な差が確認されました。 ※エビデンスは、別途添付します。
5	地域への波及効果	上記の有意差を元に、今後寄付先の子ども食堂などにおいても同様の笑顔検知を行い、その笑顔をIoT技術等によってターゲットに通知し、発信源であるターゲットの笑顔により、寄付先でも笑顔が創出されているということを認識していただくことで、笑顔の循環および笑顔寄付に伴う幸福感の向上が拡大します。 浜松市での事例では、介護施設や障害者施設を対象としていますが、他の自治体では、保育園や外国人学校での笑顔検知、スポーツ観戦時の笑顔検知などユースケースは多岐に渡り、あらゆる人において自分ごととなる可能性が高く、本取組を拡大していくことで、地域内はもとより、全国、全世界に波及が可能になります。 従来の寄付は経済的余裕のあるものに限られていた行為であったのに対し、笑顔の介在により、地域内外の寄付に関与する人口が最大化することで、活動の認知と共に共助社会の醸成が促進されます。

No	項目	内容
6	取組やサービスの効果測定的设计	【笑顔の発生状況の記録】 AIを活用した笑顔検知アプリは、笑顔の回数だけでなく、発生した時間、場所、検知した端末IDを合わせて記録しており、さらに、浜松市データ連携基盤にデータ連携を行っています。 笑顔検知機材設置先で起こった事柄やイベントなどと照らし合わせることで、どういったことにより、多くの笑顔が生まれているかを分析することが可能です。 【アンケート調査】 実施する取組の様態や対象者に合わせ、アンケート内容を使い分けて調査を実施し、取組の効果測定や改善につなげています。 2021年度のHamamatsu ORI-Projectの際には、慶應大の前野隆司教授の研究室に所属する魚地研究員の監修のもと、主に、介護施設のスタッフに向けて、取組の前後でアンケートを2回実施し、「他者への貢献意識」や「他者とのつながり」など、幸福感の変化を分析しました。 現在、浜松市で実施している取組では、施設利用者の家族を対象に取組のをよりよいものにするためのニーズ調査を実施しています。
7	取組やサービスを紹介したホームページやSNS等（任意）	ホームページ https://1smilefoundation.org 静岡新聞 https://www.at-s.com/news/article/shizuoka/1001216.html https://www.at-s.com/news/article/shizuoka/1270093.html 静岡放送 https://www.youtube.com/watch?v=ZVfIOU1Q8cE&list=LL&index=1 ケーブルテレビ https://www.youtube.com/watch?v=kwtWY6P-tY Facebook https://www.facebook.com/1SmileFoundation

No	項目	内容
8	取組やサービスの写真等（任意）	 仕場の笑顔見え安心 浜松の就労支援施設 A I 検知→家族にLINE 2023.7.3 浜松郵局 宮崎浩一 浜松市北区の障害者就労支援施設で5月、利用者の笑顔を見えAI（人工知能）で検知し、家族に通知して安心感の醸成につなげる実証実験が行われた。笑顔の回数を「見える化」し、幅広い分野に活用する試み。将来的には見守りサービスとしての活用に加え、笑顔の回数に応じて寄付金を贈る事業展開も見据えている。

<幸福感向上のロジックツリー>

ターゲット：介護施設等を利用する高齢者や障がい者、及びその家族や支援者

